

2025年度 愛知学泉短期大学シラバス

シラバス番号	科目名	担当者名	実務経験のある教員による授業科目	基礎・専門別	単位数	選択・必修別	開講年次・時期
52210	子ども家庭支援の心理学 Psychology of child and family support	森内 さやか			2	選択	2年後期

科目の概要

生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を学び、発達課題や起こりやすい問題等について理解する。また、家族・家庭の意義や機能について理解を深めるとともに、親子関係や家族関係等について発達の観点から理解し、子どもとその家族を包括的に捉える視点を修得する。その中で子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と課題についても理解する。これらは、ディプロマ・ポリシーの③と⑥に相当する。専門的知識と技能を身に付け、自己潜在能力を開発しながら職場と地域の課題解決に貢献できる力を獲得することを目指す。

学修内容	到達目標
① 生涯発達（胎児期から老年期）に関する心理学的な知識を学び、発達課題や起こりやすい問題について理解する。 ② 家族・家庭の意義や機能を理解する。 ③ 親子関係や家族関係等について理解し、子どもとその家族を包括的に捉える視点を学ぶ。 ④ 子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と課題について理解する。	① 各発達段階の特徴を学び、発達課題や起こりやすい問題を理解することができる。③ ② 家族・家庭の意義や機能を学び、理解できる。③ ③ 親子関係や家族関係等について理解し、子どもとその家族を包括的に捉える視点を持てるようになる。⑥ ④ 子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と課題について理解できる。⑥

学生に発揮させる社会人基礎力の能力要素		学生に求める社会人基礎力の能力要素の具体的行動事例
前に踏み出す力	主体性	・自分なりの課題意識をもって講義内容を聞き、要点を筆記する。 ・グループ討議では、積極的に意見を述べ、協力して発表内容をまとめる。
	働きかけ力	
	実行力	・グループ討議で意見を出し合い、整理して、聞く人に伝わるように発表できる。
考え抜く力	課題発見力	・実習経験や今までの学修を基に課題を探し出すことができる。
	計画力	
	創造力	・グループ討議や発表で、他の学生の意見を聞き、自分自身の経験と合わせて、意見をまとめることができる。
チームで働く力	発信力	・講義内容で疑問に思ったこと、分からないことを積極的に質問できる。
	傾聴力	・講義内容、他の学生の意見に耳を傾け、自分自身のこととして考えることができる。
	柔軟性	
	状況把握力	
	規律性	・遅刻、無断欠席など、学習意欲欠如をきたす行動をせず、授業が円滑に進行するようルールを守ることができる。
	ストレスコントロール力	・自己のストレスに意識を向け、その予防や対応を考えることができる。

テキスト及び参考文献

『子どもまんなか社会に活かす「子ども家庭支援の心理学」』 立花直樹 安田誠人 晃洋書房 （価格 2,000円+税）

他科目との関連、資格との関連

他科目との関連：「保育の心理学」、「幼児理解」、「子どもの家庭支援論」
資格との関連：「保育士」

学修上の助言	受講生とのルール
・授業内容を実習体験や、日常生活での出来事と重ね合わせて理解する。	・保育士は人を対象にした仕事であるため、知識と豊かな情緒を育むことができるように、学ぶ意欲をもって臨むこと。 ・携帯電話は、授業中は使用しないこと。

【評価方法】

評価対象	評価方法		評価の割合	到達目標				各評価方法、評価にあたって重視する観点、評価についてのコメント	
学修成果	学期末試験	筆記（レポート含む）・実技・口頭試験	0	①					
				②					
				③					
				④					
	平常評価	小テスト	30	①	✓				授業で学修した内容の理解度を確認し、自身の考えを述べることができるかを評価する。 ・各発達段階の特徴と起こりやすい問題について理解し、述べることができるか。 ・家族・家庭の意義や機能について理解し、述べることができるか。 ・親子関係・家族関係について理解し、子どもとその家族を包括的に捉えることの大切さを述べることができるか。 ・子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と課題について把握し、子育て支援の在り方について自身の考えを述べることができるか。
				②	✓				
				③	✓				
				④	✓				
		レポート	30	①	✓				小課題を複数回出題する。実施時期テーマは授業中に指示する。
				②					
				③	✓				
				④					
		成果発表（プレゼンテーション・作品制作等）	30	①					第11週、12週において、各テーマについてグループ討議を行い、作成した資料をもとに成果発表を行う。 グループ討議の資料（10点）、プレゼンテーション(20点) ・問題行動の理解、支援方法、予防について、的確にまとめることができ、説明できているかを評価する。
				②					
				③					
				④					
学修行動	社会人基礎力（学修態度）	10	①					(主体性) ・興味関心、学修意欲の高さ、積極的な発言を評価する。 (実行力) ・グループ討議で、積極的に発言し、意見をまとめるように働きかけることを評価する。 (課題発見力) ・実習体験や今までの学修から各発達段階における心の問題を考えようとすることができる。 (創造力) ・グループ発表で他の学生の意見を開き、自身の体験と合わせて、保育現場での子どもに対するよりよい支援を考えることができる。 (発信力) ・講義内容に対して、疑問に思ったことを質問できる。グループ発表時に、聞き手にわかりやすいように発表することができる。 (傾聴力) ・講義内容、他の学生の意見に耳を傾け、興味をもって聞く姿勢がとれる。 (規律性) ・遅刻、無断欠席など学習意欲欠如をきたす行動をせず、授業が円滑に進行するようルールを守ることができる。欠席した場合は欠席届を提出し、フォローレポート課題を行う。 ・受講態度（学習意欲欠如、課題未提出、グループ活動への非協力等）が見られる場合は10点減点する。 (ストレスコントロール力) ・自己の性格特徴を理解し、ストレス軽減を図るよう予防と対応を考えることができる。	
			②						
			③						
			④						
総合評価割合			100						

【到達目標の基準】

到達レベルS(秀)及びA(優)の基準	到達レベルB(良)及びC(可)の基準
・保育の専門家として、各発達段階の心身の発達の特徴や問題を理解し、述べるができる。（①） ・家族や家庭の意義や機能を理解し、価値観や機能が多様化していることを含めて説明することができる。（②） ・親子関係・家族関係について理解し、子どもとその家族における包括的な支援方法を述べることができる。（③） ・親子の育ちに目を向けた、子育て支援について考えを述べるができる。（④） S（秀）＝①＋②＋③＋④、 A（優）＝①又は②又は③又は④の内の3つ	・乳幼児期の母子を中心に心身の発達課題や問題行動を理解し、述べるができる。（①） ・家族や家庭の多様性を学び、特徴を述べることができる。（②） ・親子関係・家族関係について理解し、子どもとその家族を包括的に捉える視点の大切さについて述べることができる。（③） ・子育て家庭の現状と課題について述べることができる。（④） B（良）＝①＋②＋③＋④、 C（可）＝①又は②又は③又は④の内の2つ

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベルC(可)の基準	予習・復習	時間 (分)	能力名
1	オリエンテーション 子ども家庭支援の心理学を学ぶことがなぜ保育上必要なのかわかる。	講義	子ども家庭支援の心理学を学ぶことがなぜ必要なのかを説明することができる。	(復習) テキストに目を通し、全体の流れを把握する。	180	主体性
2	胎児の心身の発達を学び、命の尊さを知る。さらに母子の心身の状態を理解し、起こりやすい問題や課題について知識を得る。	講義	中枢神経系の発達を阻害する要因について、説明することができる。	(復習) プリントを読み、胎児の発達を理解する。 (予習) 乳幼児期の発達を再認識する。	180	主体性 規律性
3	乳児期の心身の発達にともなう問題や課題について学び、その予防や対応を考える。母子関係、家族関係の視点から学ぶ。	講義	乳児期の心身の発達の特徴を発達段階にに応じて説明できる。	(復習) 乳児に関する今までの学習や、実習体験を振り返り、ノートにまとめる。	180	課題発見力 規律性
4	幼児期の心身の発達にともなう問題や課題について学び、その予防や対応を考える。母子関係、家族関係、友だち関係など関係性の視点から学ぶ。	講義	幼児期の心身の発達の特徴を発達段階にに応じて説明できる。	(復習) 幼児に関する今までの学習や、実習体験を振り返り、ノートにまとめる。	180	課題発見力 規律性
5	児童期における心身の発達と起こりやすい問題や課題について学び、その予防や対応について家庭生活と学校生活の両面から考える。	講義	児童期における心身の発達の問題について記述できる。	(復習) 特別支援教育について調べてノートに記入する。 (予習) テキストを読み、要点をまとめる。	180	主体性
6	思春期から青年期における心身の発達とそれにとともなう身体症状や精神症状を取り上げ、身近な問題として具体的にその予防や対応について考える。	講義	思春期から青年期における心身の発達の特徴を説明できる。	(復習) 思春期に起こりやすい精神疾患について詳しく調べてまとめる。	180	主体性
7	青年期以降における心身の問題を具体的に取上げその予防や対応について考える。	講義 心理検査の実施結果を自己分析させ、その後の日常生活において活用できるようにフィードバックを行う。	自身の性格特徴を捉え、ストレスを軽減する方法を考えられる。	(復習) 心理検査から自分の性格特徴を理解して、日常生活で意識して過ごすようにする。 (予習) 自身の身の回りや実習体験から家族の機能について考え、記述する。	180	ストレスコントロール力
8	家族の形態や機能を知ると共に、家庭の意義と機能を理解する。	講義	家族に対する価値観や機能が多様化していることを説明できる。	(復習) 講義で学んだことを予習内容に追加して記述する。	180	主体性

能力名：主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベルC(可)の基準	予習・復習	時間 (分)	能力名
9	家族の発達段階と発達課題について学び、親子関係・家族関係の理解を深める。	講義	家族の発達段階と発達課題があることを説明できる。	(予習) 子育て経験が親に与える影響について調べる。	180	主体性
10	子育てを取り巻く社会的状況と子どもの生活・生活環境とその影響について理解する。	講義	子どもを取り巻く社会的状況について説明できる。	(復習) 子育てを取り巻く社会的状況を学び、子育て支援に必要なこと、活用できる資源についてまとめる。 (予習) 自身のライフコースについて考えてみる。	180	主体性
11	保育現場における事例を通して、子どもと家庭のさまざまな問題を理解する。	講義 ICTを活用して調べる グループ討議	積極的に意見を言う。ICTを活用して調べた知識や、実習経験を思い出しながら、グループ討議に積極的に参加することができる。	(予習) グループ発表のための資料を用意する。	180	実行力 創造力 規律性
12	グループ発表を聞き、子どもと家庭のさまざまな問題に対する支援や予防について検討する。	グループ発表 わかりやすく聞き手に理解してもらうことを意識した発表。	グループ発表で、聞き手にわかりやすくまとめ、発表することができる。	(復習) グループ発表のプリントを読み、理解を深める。	180	発信力 傾聴力 規律性
13	生涯発達の視点からライフコースにおける、仕事と子育てについて学ぶ。	オンデマンド配信 ICTを活用して調べる レポート課題出題	ライフコースにおける仕事と子育ての関わりをICTを活用して調べた内容も含めて理解し、レポートにまとめることができる。	(予習) 虐待について調べる。	180	主体性 課題発見力
14	多様な家庭があることを理解すると共に、特別な配慮を要する家庭への対応を学ぶ。	講義	多様な家庭があることを理解し、説明できる。	(復習) 多様な家庭があることを理解し、保育士として可能な物理的、心理的な支援を考え、まとめる。	180	課題発見力
15	子どもの発達や子どもを取り巻く環境について学んだことを統合し、保育の専門家として、さらに個人として豊かな人生が送れるように、生きることについて考える。	講義	生涯発達について意識をもち、学んだことを日常生活にいかすことができる。	(予習) テキストやノートを見直し、理解を深める。	180	主体性 課題発見力 規律性

能力名：主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力